

活動テーマ

地域魅力化につなげる 人-TSUNAGI 教育プロジェクト

横瀬町全域地区 十文字学園女子大学

1 活動目的

令和6年度は、地域住民との交流及び横瀬小学校における授業支援を主要な柱とし、学生の専門分野である教育を軸にしながら多様な人々を「つなげる」ことを目的として活動に取り組んだ。

そして、活動の目標を次の4つに設定した。

- ①あそびや体験活動の機会をとおして横瀬町の子供たちや地域の人々をつなげる。
- ②横瀬町の農産物を使ったスコーンを開発販売し、横瀬町のおいしさと人々をつなげる。
- ③横瀬小学校の国際理解活動を実践し横瀬町と外国をつなげる。開発途上国の人を招いたり島根県の小学校とオンラインで交流したりして、児童の気持ちをグローバル社会とつなげる。
- ④学生が農園の手入れなどを手伝いながら横瀬町の農業と学生（若者）をつなげる。

2 活動地域の現状

横瀬町は、埼玉県秩父盆地の南東端に位置し、総面積 49.49 平方キロメートル、人口約 7,600 人の町である。東は飯能市、西北部は秩父市に接し、都心から約 70km 圏内に位置し、西武鉄道を利用すれば池袋駅から最短 72 分で到達可能である。主要産業は農林業であり、特に観光農園が盛んである。また、豊かな森林資源や歴史的文化遺産を有し、首都圏近郊の観光地としても知られている。さらに、町の将来ビジョンとして、多様な人々が多様な幸せを実現できる「カラフルタウン」の実現を掲げ、官民連携プラットフォーム「よこらぼ」等を活用しながら企業や個人との協働を通じた地域活性化に積極的に取り組んでいる。

3 活動内容

上記の活動目標に基づき、①～③の活動を実施した。

①地域の人たちとの交流活動

活動対象を子供たちと来訪者を含む地域の方々とし、子供たちには気軽に参加できるゲームを通して、また地域の方々には昨年度からシリーズ化しているスコーン等の販売を通して交流を図った。

②横瀬小学校の授業支援

第4学年の「総合的な学習の時間」の授業において10月と11月に計3回の国際理解に関する授業を実施した。

③農業支援活動

横瀬町あしがくぼの琴平農園において、地域おこし協力隊とともにイチゴの苗植えを手伝った。



七夕の短冊づくりの様子



民族衣装を着た学生(横瀬小学校)



イチゴの苗植え

4 成果

年間の活動に対する振り返りの話し合いを通じて活動の成果を5つにまとめた。

- ①横瀬産のフルーツや野菜を使ったスコーン「ヨコスコ」を学生が開発し、シリーズ化して2年間販売することにより、素材のおいしさや町の農産物をアピールできた。また、大学関係者にも提供し横瀬町の魅力を伝えることができた。
- ②横瀬小学校の授業支援を通して児童が自分の町に関する理解を深める活動を、教育的側面から支援することができた。
- ③ゼミの学生全員が隊員として一丸となって取り組むことで互いの絆が深まった。
- ④学生自身が横瀬町の自然、文化、生活などを深く知ることができ、町に対する理解が一層深まった。
- ⑤横瀬町の方々との対話が増えて信頼関係が強まった。



スコーンとピザの販売



ベトナム人講師による授業



ENgaWAの餅つきに参加

5 課題

町の「外」の人たちへのアピールが弱かったことが課題である。SNSを活用してきたが、主に同世代の若者や大学内の学生等を対象としたものであり、町外の多様な層に向けたアピールが十分ではなかった。そのため、例えば、イベントにおいて本ゼミが開設したブースを訪れた人々の多くは事前に活動を認知していたわけではなく、「偶然立ち寄った」というケースが多かったと考えられる。また、横瀬小学校の授業支援活動においても、外部からの視察者を招くことがなく、結果として授業研究の深化につながりにくかった。

6 次年度以降の計画

3年間にわたる実践を通じて、ふるさと支援隊の取り組みは横瀬町への支援の機会となるとともに、活動に従事した学生にとって貴重な実践的学びの場となった。来年度は、横瀬町における活動の最終年度として、これまでの経験を生かしながら、大学生としての専門性を活かした「町の外部からの訪問者を増やす取り組み」と「教育的手法を活かした地域貢献活動」の二つの軸を中心に展開していきたい。